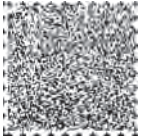


社会福祉法人 創文会  
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



第70号



〒 693-0014  
出雲市武志町 693-6  
Tel : 0853-2 3-2 7 2 0  
Fax : 0853-2 3-2 7 2 1  
E-mail : shien@heartpia.or.jp  
ホームページ  
http://www.heartpia.or.jp

## 「出雲圏域医療的ケア児親子交流会」について

2000年頃から医療的ケアを必要とする子どもさんとご家族の支援が保健所の業務として始まりました。出雲保健所で担当させていただく中で、自宅での医療的ケアのみならず、きょうだいを含む子育てや子どもの病気や将来、妻、嫁としての在り方などの不安や悩みなど多くの声をお聞きしました。その声を課題として支援するために、地域の関係する専門職の方々とネットワークによる支援検討会を2003年に立ち上げました。そこで整理した課題の一つが「親の負担軽減、きょうだい支援」です。

その課題の支援策として2004年に初めて親子交流会を開催（当時はさざなみ学園会場）しました。①安心して子どもから離れて交流やリラックス ②本人ときょうだいても楽しく過ごせる療養や遊びの提供 ③療養に関して学ぶことをねらいとして、なんと当時は宿泊での交流会でした。関係の方の絶大なるご協力により看護師などの体制が確保できたおかげで、「病気の子どものことを初めて他の人に話した。」「仲間がいる。元気が出た。また頑張れる。」「きょうだいがとても楽しそうよかった。」と、終わりの会での皆さんの満面の笑みが忘れられません。みなさんあれからどうされているのかなあと今でもふと考えます。

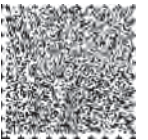
新型コロナウイルス感染症感染拡大期間は中止でしたが、昨年度また出雲保健所でこの業務を担当することになり、令和4年度から設置された島根県医療的ケア児支援センターとの共催により、会場をハートピア出雲でお世話になってリスタートすることになりました。交流のほかにはリハビリに関する学習もしています。今年も10月5日に開催されましたが、ハートピア出雲の相談員さんをはじめ多くの専門職やボランティアにサポートいただいて、「来年度もまた家族で参加したい！」と言っただけの交流会になりました。ただ、安心安全なケア実施のために参加人数を絞らざるを得ないことや、社会資源や専門職体制が十分でない地域での交流の方法には工夫がいることなどが課題ですが…。医療や福祉サービスなどはずいぶん整い利用しやすくなっても、やはり親としての悩みや不安は同じで、こういった学びや交流の場は求められていると実感しています。

県職員を退職してからも交流会のお手伝いをさせていただけることをうれしく思いますとともに、またお会いできるといいなあと思っています。（文：島根大学医学部環境保健医学講座 元島根県保健師 岩野 真保）

2ページにつづく



- 医療的ケア児親子交流会・・・・・・・・・・1 p～2 p
- 言語聴覚士ミニクイズ・・・・・・・・・・2 p～3 p
- 立位のポッチャで練習中・・・・・・・・・・4 p



## 『リハビリに関する学習会について』

親子交流会の他にリハビリに関する学習会も行っており、今回は国立特別支援教育総合研究所より講師の先生を招いて「発達に応じたポジショニングとシーティング」の学習会を行いました。親子交流会に参加されている子どもさんの支援者の専門職の方も参加されていました。

学習会の後には、講師の先生に実際に参加されている子どもさんと関わっていただき、ポジショニングの助言もいただいております。

(文：相談支援事業所ハートピア出雲  
相談支援専門員 布野 寛明)



●10月5日、ハートピア出雲を会場に行われました

## 言語聴覚士からの「フムフム、なるほど!」～第11回～

言語聴覚士 安立からのお知らせです。

ことば・コミュニケーションについての疑問を解き明かすプログラムの第11回をお送りします。第9回からのシリーズの続きで、今回はコミュニケーション場面でのことばの使われ方について考えてみましょう。

わかることば、言えることばが増えてくると、主にことばを使ってやりとりをするようになります。そして、ことばを使ったやりとりを積み重ねていくことで、状況に応じた会話ができるようになります。

Question 1 : 会話は、聞き手の状況判断に委ねられている。

Question 2 : 「どのくらい?」と言うと、相手は時間のことだとすぐにわかる。

Question 3 : 借りたときに「これ、いいね」と表すことを皮肉という。

Question 4 : 何も言わないことで、伝えられることもある。

Q1 =

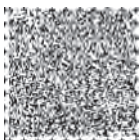


会話は、話し手と聞き手両方からの歩みよりが大切です。会話のすれ違いが起こらないようにするためには、聞き手の状況判断だけではなく、話し手も伝わりやすいように、ことば足らずな表現にならないように配慮することが必要です。

Q2 =



「どのくらい」とは、距離、時間、金額、量、大きさなどの程度が決まっていないことを示すことばです。したがって、状況がわからない場合には、距離を尋ねられたのか、時間を尋ねられたのか、とっさに質問の意味を理解することはできません。





具体例として、歯科治療中のやりとり場面をご覧ください。

一見問題なさそうですが、「どのくらいかかりますか?」という患者さんの質問の意味は何だったのでしょうか? 本当に治療にかかる時間が知りたかったのでしょうか? もしかすると時間ではなく、治療費のことを聞きたかったのかもしれない。時間はどのくらいかかるのか、治療費はどのくらいかかるのか、下線部分も一緒に言うとスムーズに伝わります。

Q3 =



これは、ほのめかしといえます。ほのめかしとは、それとなく間接的に伝える表現方法で、ことば以外の仕草や表情も含みます。質問のように、なにか借りたいと思ったときには「貸して!」と直接的に表現する場合もあれば、「これいいね」と別のことばで匂わせる場合もあります。つまり、同じ状況を違うことばで表すことの例が、ほのめかしです。皮肉は、ほのめかしとは逆です。違う状況を同じことばで表します。



きれいね



きれいね

海に沈んでいく夕日、このような情景には「きれいね」ということばがぴったりですね。しかし、ゴミだらけの道路をみて「きれいね」言われたときは、どうでしょう? きれいだと思われてはいませんね。このような場合が「きれい」という褒めことばによって、「きたない」という否定的なメッセージを伝えている皮肉です。

つまり、「きれい」という同じことばでも、使われ方が違うのです。

Q4 =



ことばに出して言わないことで伝えられることもあります。

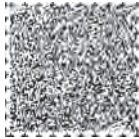
例えば、騒いでいる子どもを注意しないで見過せば騒いでいることを「黙認」したことになるります。



いかがでしたか? 次回は、コミュニケーションシリーズのまとめをお送りします。

(文: ハートピア出雲ステップ児童指導員 安立 多恵子)





## めざすは「島根かみあり国スポ・全スポ」出場！

パラリンピックでも競技になっているボッチャですが、ハートピア出雲デイセンターの活動でもボッチャを活動に取り入れ、毎年あるボッチャ大会に向け日々練習に励んでいます。

2030年には全国障害者スポーツ大会が、「島根かみあり国スポ・全スポ」のタイトルで島根県で開催されることが決まっています。

ボッチャは全スポでも個人競技の一つとなっており、2030年に向けて県の代表選手になれそうな選手を集めています。

全スポでは2人1組のチームで行い、男女区別なく、「立位」と「座位」の選手で構成されます。

●スナップを利かせボールに回転をかけます



※写真はご本人の了承を得て掲載させていただいております。

ハートピア出雲デイセンターをご利用されておられる今若義明さんに全スポの候補選手にならないかと声がかかりました。今若さんは普段は車椅子で生活をしておられますが、杖を使えば歩行することも可能な方です。代表選手は車椅子の選手は沢山おられるのですが、立位の選手が少なく、今年のボッチャ大会を見ていた役員の方に声をかけて頂きました。

今若さんは以前までは車椅子に座りながらボールを投げておられました。今年から立位でボールを投げられるようになりました。車椅子に座って投げると重心も安定し、コントロールよく投げられていたのですが、立位になると、杖を持っているほうの手でボールを投げる為、重心が不安定になりコントロールが定まらず、いつも以上にボールをコントロールするのが難しくなってきます。ですが、役員の方に声をかけてもらってから、以前よりモチベーションが上がり、意欲的にボッチャの練習に参加されるようになりました。高校時代、甲子園出場経験のある今若さん、コツを掴むのが早く、今では綺麗なスナップで現役時代を彷彿させるようなスローイングを見せてくれます。

2030年の全スポ県代表選手を目標に、これからも精進していきます。

(文：ハートピア出雲デイセンター 生活支援員 園山 駿介)

【全国障害者スポーツ大会（全スポ）とは】

国民スポーツ大会（国スポ）終了直後に同じ都道府県で開催される障害者スポーツの祭典です。

この大会の目的は、障害のある選手が障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害のある方の社会参加の推進に寄与することを目的として開催します。

全スポの競技種目で団体競技は「バスケットボール」、「車いすバスケットボール」、「グラウンドソフトボール」、「ソフトボール」、「バレーボール」、「サッカー」、「フットソフトボール」があり、個人競技は「陸上競技」、「水泳」、「アーチェリー」、「卓球」、「フライングディスク」、「ボウリング」、「ボッチャ」などの種目があります。

### 編集後記

◆今年の7月から20年ぶりに新しいお札が発行され、もう皆さんのお財布にもお目見えしていると思います。お札の偽造防止技術が上がり、一枚一枚に肖像画のお顔が左右に動いて見えるホログラムが施されていますが、どうもあれを見ると「ビックリマン」シールのヘッド（レアなシール）を思い出してしまうのは私だけ！？でしょうか（笑）。新しいと言えばこの「トピア」もタイトルロゴをちょこっとだけリニューアル。今回が第70号で、なんか節目っていうかきりがいいかなと（笑）。

【編集長 米山】

